

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 20 日

評価対象事業		評価者	文化財課長 鈴木 庸一郎	
文財-06	実施事業	公開宣伝事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課 文化財課
	まち・ひと・しごと		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	歴史環境	施策の方針	文化財の保存、調査・研究、情報の充実

1 事業の目的

対象	市民等
意図	市内に所在する文化財を紹介し、郷土への理解を深めるとともに、文化財愛護の精神の高揚を図るため。
効果	郷土への理解を深めるとともに、文化財愛護の精神の高揚を図ることにより、文化財を保護・保存し、文化財を後世に伝える。

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> 郷土芸能大会、遺跡調査・研究発表会、埋蔵文化財の地下道ギャラリーパネル写真展等の実施や、鎌倉の埋蔵文化財等の出版物の刊行等を行った。 郷土芸能大会支援業務委託料については、年度内に完了できないため、翌年度へ繰越しを行った。
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)決算		データ区分	02年度(2020年度)当初予算		備考
	人口等のデータ	人口	176,308人	176,436人		人口	176,608人	
	世帯数	81,763世帯	82,444世帯	世帯数	83,058世帯			
運営資源状況	事業の対象者数			事業の対象者数				
	決算値(千円)	1,524	2,213	当初予算(千円)	2,806			
	国県支出金	112	119	国県支出金	146			
	地方債			地方債				
	その他			その他	30			
	一般財源	1,412	2,094	一般財源	2,630			
	人員配置数	1.0	2.0	人員配置数	2.0			
			会計年度任用職員配置数	0.0				
事業経費運営	人件費(千円)	7,864	15,728	人件費(千円)	16,010			
	総事業費(千円)	9,388	17,941	総事業費(千円)	18,816			
	市民1人当りの経費(円)	53	102	市民1人当りの経費(円)	107			
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)				

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない	
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない	
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある	
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいか	3. 廃止・休止による影響は大きくある	
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である	
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいか	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している	
公平性	受益者負担は公正・公平か	<input type="radio"/> 負担導入済	<input type="radio"/> 2. 適正な受益者負担を導入している
			<input type="radio"/> 2. 既に市民等と協働して適切に事業を実施している
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	<input type="radio"/> 協働実施済	
			協働実施済の場合のパートナー 鎌倉郷土芸能保存協会 NPO法人鎌倉考古学研究所
事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒	見直しの種類	見直しの内容
	<input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> 縮小
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒		<input type="checkbox"/> その他
			事業へ統合
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	より多くの人々が市内の文化財についての理解を深め、文化的活動の糧としての利用が図られるよう、文化財の公開・活用を増やす取り組みを実施するため、予算規模は現状維持とする。 なお、令和2年度から「公開宣伝事業」を「文化財公開活用事業」と名称を変更する。
	<input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする		
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する		
総評(評価に対する考え方、根拠等)	<p>・文化財の公開・活用に対する市民ニーズが変わらずあり、また、より多くの人々に文化財についての理解を深めてもらうことは、貴重な国民的財産である文化財の保存に必要であることから、事業の廃止・休止による影響は大きく、今後も市が実施する必要がある。</p> <p>・『鎌倉の文化財』の発行、『鎌倉市文化財年報』の刊行など、市内文化財の周知・啓発の機会を増やしたが十分とは言えず、また、保管されたまま活用できていない出土品等も多く存在しているため、さらなる創意工夫と活動の充実が必要である。</p>		

<p>令和元年度(2019年度)事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民の方に、郷土芸能をより親しんでもらうため、郷土芸能大会の観客増加のための工夫が必要である。 出土品の展示場所の確保が十分ではないため、機会をとらえて周知・宣伝等を積極的に行う必要がある。 文化財関連業務の周知、広報が十分ではない。
<p>課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第50回郷土芸能大会の参加者、来場者を増やすため、光明寺で開催するとともに、玉縄中学校箏曲部と玉縄太鼓を特別出演団体として招いた。 日本語及び英語表記の郷土芸能大会のポスター、チラシを、市の施設だけでなく、江ノ島電鉄や、郵便局に掲示、配架した他、ホームページやツイッターでの周知するとともに、当日もチラシの配付を行った。 市民、市役所職員への啓発事業として、文化財課カウンター前に展示している出土遺物の展示替えを行った。 鎌倉歴史文化交流館と連携し、出土遺物の展示を行った。 遺跡調査速報展を実施したほか、NPO法人鎌倉考古学研究所と共催で遺跡調査・研究発表会を実施した。 『鎌倉の文化財』23集の発行、『鎌倉市文化財年報』の刊行、『としよりの話』の増刷を行い、文化財及び関連業務の周知に努めた。 <div style="float: right;"> <input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決 </div>
<p>未解決の課題、新たな課題とその理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第50回郷土芸能大会は盛況だったが、引き続き数多くの人に郷土芸能に親しんでもらう機会増やす必要がある。 出土品のさらなる活用のため、新たな展示場所の確保と魅力的な展示の工夫をしていく必要がある。 文化財及び関連業務のさらなる周知、啓発を図り、文化財保護の機運を醸成していく必要がある。

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名								
他市実績								
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方								

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	鎌倉市遺跡調査・研究発表会来場者数					単位	人	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
来場者数が多いほど、より多くの市民等に市内の埋蔵文化財への理解を深めていると判断できるため。	目標値	280.0	280.0	280.0	200.0	200.0	200.0			
	実績値	280.0	280.0	120.0	140.0	150.0	110.0			
	達成率	100.0%	100.0%	42.9%	70.0%	75.0%	55.0%			
指標の内容	遺跡調査速報展来場者数					単位	人	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
来場者数が多いほど、より多くの市民等が、市内の埋蔵文化財への理解を深めていると判断できるため。	目標値	500.0	500.0	500.0	500.0	500.0	500.0			
	実績値	568.0	399.0	304.0	496.0	416.0	340.0			
	達成率	113.6%	79.8%	60.8%	99.2%	83.2%	68.0%			
当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	<ul style="list-style-type: none"> 公開・活用場を増やし、見学者、客数が増えることで、より多くの人々に市内の文化財についての理解を深めてもらうことができる。 遺跡調査・研究発表会の観客数実績値が平成27年度から平成28年度にかけて減少しているのは、平成28年から、標記方法を延べ人数ではなく、入場者の実数を実績値としたためである。目標値も、平成29年度以降は実数とした。令和元年度は、会場がこれまでの鎌倉生涯学習センターから深沢学習センターに変更となったため、参加人数が減少したと考えられる。 									